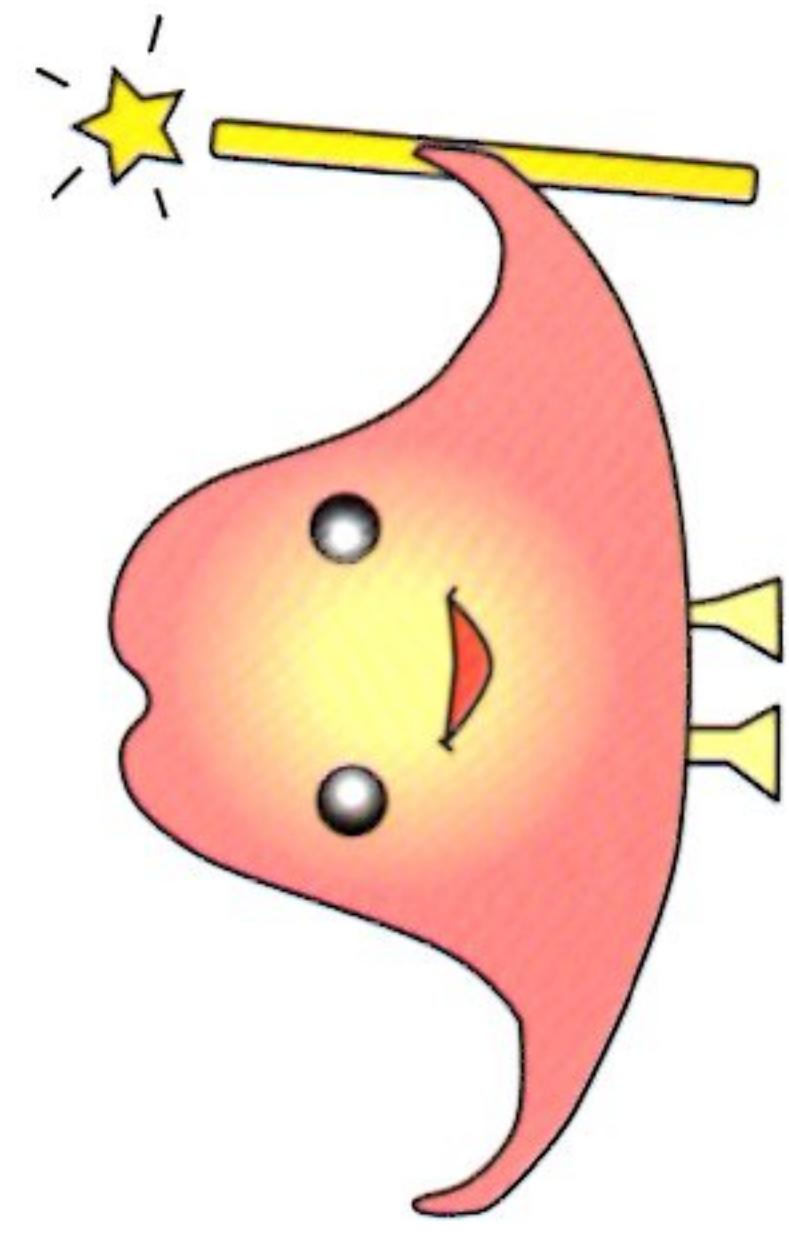


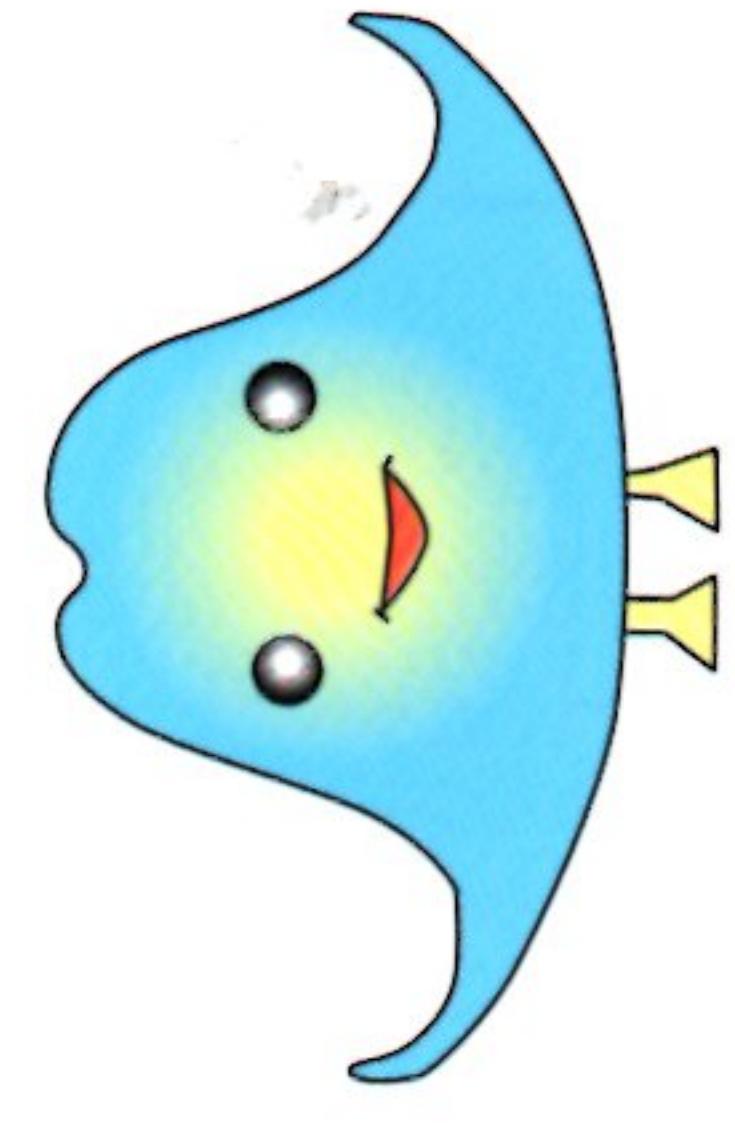
創立70周年記念冊子

みのり図書室だより

平成23年4月～平成30年5月迄



(学) 大森みのり幼稚園



みのり図書室だよ

平成30年5月29日

図書部 柄澤可奈子
大森みのり幼稚園

加古里子さんの絵本

連休明けの5月8日に絵本作家の加古里子さんの計報が伝えられました。長年に渡り多くの作品を発表して今年の1月にも新作を3冊出されました。まだ、新しい作品に出会えると楽しみにしていただけに残念です。加古さんが長きにわたり、作品を生み出する原動力になっていたのは戦争への反省・平和への願い・未来を築く子どもたちへの思いがありました。今回は幼稚園にある加古さんの絵本を紹介します。これからも読み継がれてほしい作品ばかりです。

まずは、加古里子さんの代表作といつたら「からすのパンやさん」ではないでしょうか？私も子どもとの頃にこの作品に出会いました。特に大好きなのは色々な形のパンが見開きにたくさん載っているページです。ずっと見ていても飽きないです。こんなパンが食べたいなあと思います。大人になって読み返しても共感でいっぱいです。

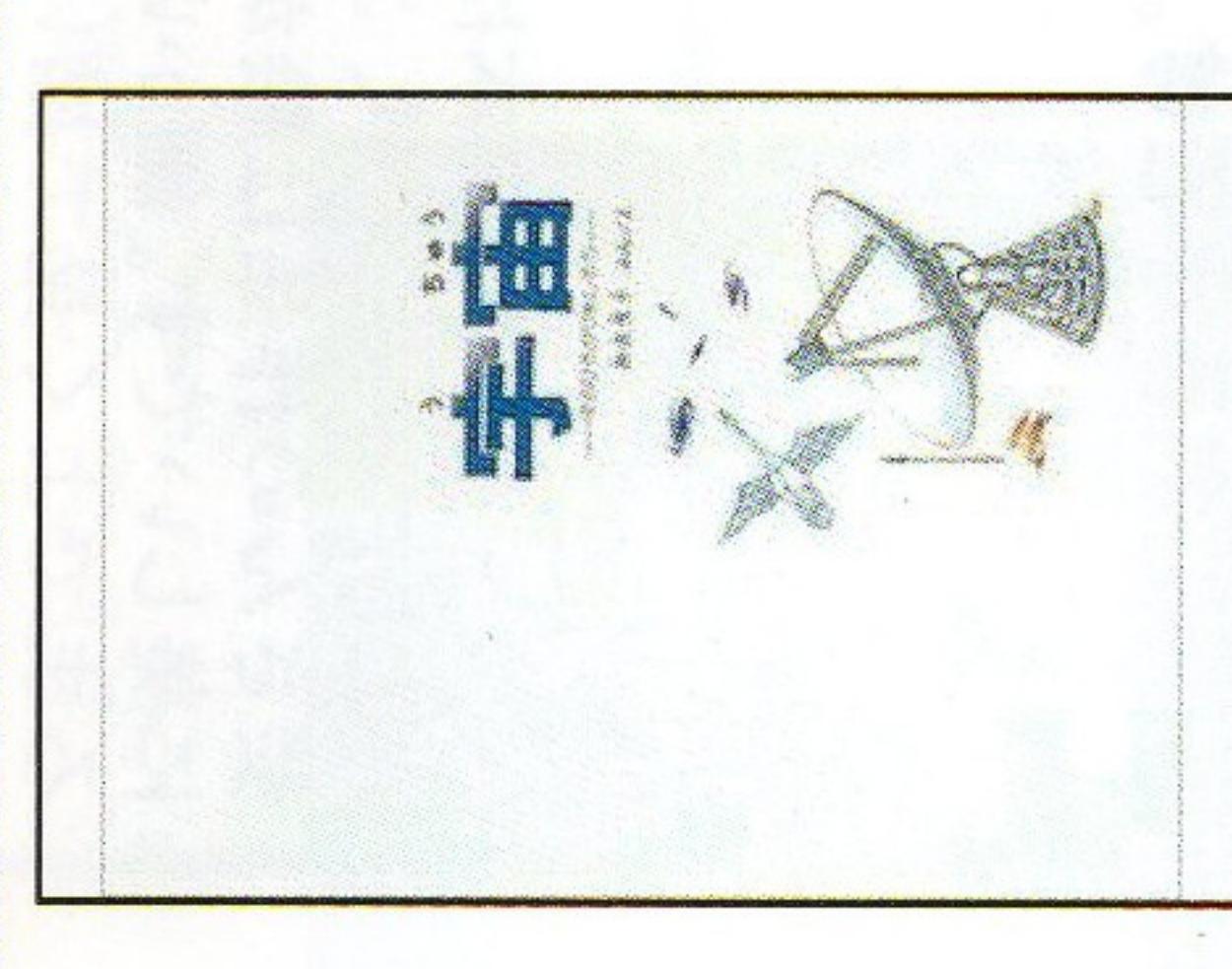
子育てをする親の大変さが印象に残ります。平成13年に続編として「からすのやおやさん」・「からすのくんぶらやさん」・「からすのおかしやさん」・「からすのそばやさん」が出版されています。

「とこちゃんはどこ」

赤い帽子をかぶったとこちゃんを絵本の中のどこにいるのか探す絵本です。日本版「ウォーリーを探せ」という感じでしょうか。とこちゃん以外の人物の様子も細かく描かれています。とこちゃんを探し終わったら、とこちゃんを探す両親やおばあちゃんがどこにいるかを探してみるのも楽しいですよ。

「たるまちんとてんぐちゃん」

こちらの本は「からすのパンやさん」と同じくらしい人気のある加古さんの作品シリーズです。たるまちんは、ともだちの天狗ちゃんのもつているものがほしくなってしまいます。そしてなんとてんぐちゃんの長い鼻まで。さあ、どうするのでしょうか？



加古さんは多くの科学絵本も手がけています。こちらの本もそのうちの1冊です。身近な虫の話から宇宙の果てまで。取っつきにくいテーマですが挿絵や図版を多くして子どもの好奇心を引く工夫がされています。幼稚園生には難しいかもしませんが、大人が読んでも十分楽しめる1冊です。

最後に加古さんのホームページにあった言葉を紹介します。「ここからだよりたくましくあれ よりうつくしきあれ よりすこやかであれ よきみらいのために」



4月下旬から年長さんの貸し出しが始まり、子ども達も元気な挨拶と共に図書室に来てくれました。春休み中に届いた新しい絵本も年長さんを待っていました。今回は、子どもたちに人気のある、おばけの本をいつもより多く入れました。貸し出し冊数も2冊までとなり多くの子が2冊ずつ借りていました。1冊の本を何人かの子が借りたいとなった時も、じやんけんで決めるのか、話し合いで決めるのか、様子を見ていましたらお互い譲り合う様子も見られました。さすが年長さんだと感心しました。借りられた子には次回に借りられるように記録しておいたり、または同じシリーズや似たような内容の本を紹介したりしています。

連休明けはお天気が悪く、お外遊びができない日もあつたので図書室を利用してくれたクラスも多かったです。これから梅雨の季節になりますと屋外での活動が制限されますが、そんな時はご家庭でも絵本を楽しむ時間を上手に取り入れてもらえるといいなあと思います。



「ぞろりぞろりとやさいがね」
ひろかわさえこ作 偕成社
みんなが寝静まった夜。冷蔵庫の扉が開いて出てきたのは古くなつた野菜たち。自分たちをダメにした人間を恨んで集会を開いています。そこへミズの和尚さんがやつてきて野菜たちをなだめることはできるでしょうか？



「やもしろうとはりきち」
降矢なな 作 佼成出版
やもしろうとはりきちは、赤ちゃんの時から仲良し。成長するにつれ、お互いの違いも見えてきて気持ちがすれ違うこともあります。そんな時、やもしろうにピンチが訪れ、はりきちがとつた行動は？